

# 「ブラジル日本移民 105周年」を祝して

## 安倍晋三

内閣総理大臣



「移民の日」を迎えるに当たり、皆様から  
お慶び申し上げます。

ブラジル日本移民105周年という今年、改めて、日本から遠く離れた

ブラジルの地で、苦難に直面しながらも粘り強く、真摯な努力で成功を収め、社会からも、そしてブラジル政府からも大きな信頼を得られてきた日系人の皆様、心から敬意を表したいと思います。150万人という世界最大の日系社会の存在が日本とブラジルの

友好かつ強固な関係に大きく貢献してきたことは疑いありませんが、それはひとえに、皆様のそして皆様の先人から続く地まなひ努力の結晶であり、ここに改めて心からの感謝を申し上げます。日本が2011年に経験した東日本大震災という大きな困難から2年以上が経過し、未曾有の被害がもたらされた被災地も、多くの人命を失った深い悲しみを乗り越え、復興へと着実に歩みを進めています。私は昨年末に再び日本国内閣

総理大臣に就任いたしました。それ以来、日本に強い経済を取り戻すことを重要な目標の一つに掲げており、そして陛下に活力が戻ってきていることを感じております。大きな困難を経験した日本が、再び明るさを取り戻しつつあるのも、世界中の皆様から様々な支援を頂いたおかげであります。そして日系人の皆様を始め、ブラジル政府等からも決山の励まし、支援を頂き、遠く離れた地から常に日本を支えて下さっている日系

の皆様の存在、また日本とブラジルの強い絆を再認識することができました。ここに、改めて深く感謝いたします。今月末にはルセーフ大統領をお迎えし、日伯関係について広範に議論することを楽しみにしております。世界を見渡せば、依然として厳しい経済情勢や複雑な問題が存在する中、国際場裏の様々な場面で存在感と影響力を増すブラジルには、経済のみならず、世界中の人々が注目しています。ブラジルに進出する

る日本企業の数も、近年増加を続けており、明年のサッカーワールドカップ、2016年のリオデジャネイロ・オリンピックといったイベントに向けて、ブラジルへの関心はますます高まっています。これからのブラジルの活況を「黄金の10年」と称する声も聞かれるようになってきました。ブラジルは日本にとって伝統的な友好国です。その経済的ポテンシャルと政治的なプレゼンスをもって、グローバルな

# 日本移民105周年に寄せて

外務大臣

岸田 文雄



ブラジルにおいて「移民の日」を迎えるに当たり、ブラジルで生活をされている日系人の皆様、心からお祝いを申し上げます。

年、また明年は日本ブラジル友好120周年と、両国関係の節目を迎えられます。現在ブラジルの日系社会は世界最大、約150万人と書かれておりますが、日系人の皆様はブラジルの地に初めて移住してからの今年で105

きく貢献してきたことは、ブラジル社会も認めるところであり、事実、ブラジルの各界で多くの日系人の方々が活躍されていることに、私は強い誇りを感じるとともに、敬意と感謝を表したいと思います。

ブラジルに世界最大の日系コミュニティがあることに加え、日本にも現在20万人のブラジル人コミュニティがあり、日本とブラジルは、両国を結ぶ人と人とのつながりを支えられております。日本ブラジル関係はまた、両国間でこれまで数多くのナショナルプロジェクトが実施されるなど、長い歴史に裏打ちされた、重層的な関係と書えます。

現在、豊富な資源、民主主義と法の支配に基づく安定した体制、そして今後数年間継続して世界的な大規模イベントを開催することへの期待感から、世界はブラジルへの関心を高めています。そして日本からも近年ブラジルへ進出する企業数は増加傾向にあるなど、官民の幅広い層がブラジルに目を向けてい

り支えられております。日本ブラジル関係はまた、両国間でこれまで数多くのナショナルプロジェクトが実施されるなど、長い歴史に裏打ちされた、重層的な関係と書えます。

現在、豊富な資源、民主主義と法の支配に基づく安定した体制、そして今後数年間継続して世界的な大規模イベントを開催することへの期待感から、世界はブラジルへの関心を高めています。そして日本からも近年ブラジルへ進出する企業数は増加傾向にあるなど、官民の幅広い層がブラジルに目を向けてい

る日本企業の数も、近年増加を続けており、明年のサッカーワールドカップ、2016年のリオデジャネイロ・オリンピックといったイベントに向けて、ブラジルへの関心はますます高まっています。これからのブラジルの活況を「黄金の10年」と称する声も聞かれるようになってきました。ブラジルは日本にとって伝統的な友好国です。その経済的ポテンシャルと政治的なプレゼンスをもって、グローバルな

大國として進むブラジルが、日本との間で一層の関係強化、相互理解を進めることができるよう期待しています。100年を越える深く長い歴史を持つブラジルの日系社会の皆様、日本とブラジル双方をよく知る立場におられる皆様、それぞれの分野で活躍されること、このような日伯間の関係強化につながるものであると考えます。皆様のますますの御活躍と日系社会の更なる御発展をお祈りいたします。

# 新次元の日伯協力関係へ

駐ブラジル日本国大使 三輪 昭



第105回目の「日本移民の日」を迎えるにあたり、心よりお祝いを申し上げます。  
最初の日本人移住者が笠戸丸にてサントス港に到着して、今日で1世紀と5年になります。この日は、1世紀以上におよぶ移住者全員の御努力と、日伯関係は目覚まし

く進展しています。長年の日本・ブラジルの友好関係の中で、日本移住者がブラジルの地において果たしてきた大きな軌跡を忘れてはならないと思います。この記念日は、1世紀以上におよぶ移住者全員の御努力と、日伯関係は目覚まし

シヨンスカップに続き、2014年のワールドカップ、2016年のリオ・オリンピックといった大型のイベントが開催されます。日本政府としても、日系社会の強い絆によって結ばれた両国の友好関係が更に促進されるように、微力ながら全力を尽くして取り組む所存です。引き続き皆様からも御協力・御支援を賜れば幸いです。

# 「日本移民の日」を祝して

在サンパウロ日本国総領事 福島 教輝



「日本移民の日」を迎えるに際し、ご挨拶申し上げます。日本人のブラジル移住が105周年を迎えたこ

れブラジルに移住し、

ト・グロソソ州、南マツト・グロソソ州において、数多くの日系団体及び日系移住地を訪問する機会を得ることができました。訪問先では、多くの方々との親交を温め、様々な意見交換をし、改めて105年という歴史の流れの中で進捗と続いてきた日系社会の歴史を感慨を持って受け止めることができました。

「日本移民の日」を迎えるに際し、ご挨拶申し上げます。日本人のブラジル移住が105周年を迎えたこ

幾多の苦難を乗り越えた末に今日150万人とも言われる日系社会の繁栄へと繋がる道を切り開いてこられた先人の方々に深い敬意を表すると共に、ブラジルの大地に眠る多くの開拓先亡者の方々に對し、衷心より哀悼の意を捧げます。

昨今サンパウロ総領事として着任して以来、サンパウロ州を始め、マツト・グロソソ州、南マツト・グロソソ州において、数多くの日系団体及び日系移住地を訪問する機会を得ることができました。訪問先では、多くの方々との親交を温め、様々な意見交換をし、改めて105年という歴史の流れの中で進捗と続いてきた日系社会の歴史を感慨を持って受け止めることができました。

その中でも、文化の伝承及び子弟への熱心な教育に取り組まれている姿に感動いたしました。これからの世代を担う子供たちが、日系人という誇りを持って教育を受け、日伯両国の社会で大いに活躍をされることを願っています。



# 新たなパートナーシップ

ブラジル日本商工会議所  
会頭 藤井 晋介



ブラジル日本移民100周年記念日を迎えるにあたり謹んで挨拶を申し上げます。

5周年記念日を迎えるにあたり謹んで挨拶を申し上げます。

ブラジルは世界第6位の経済大国になりました。近年IT革命やグローバル化が進み、BRICsなど新しいパワー

の台頭により、世界は新たな秩序を模索しており、日系移民の方々が一世紀かけて築いてこられたブラジルと日本の関係は、両国の更なる発展のために益々重要となっております。

日本は「アベノミクス」を掲げ、新たな成長戦略を模索し始めました。が、好調な消費者市場、豊富なエネルギー・天然資源や食糧資源など多様なポテンシャルを持つブラジルは、従来に増して日本企業の注目を集めて

います。実際には日本企業のブラジル進出は顕著な増加傾向にあり、商工会議所の会員数も今年前半で1990年のピークをすでに上回っています。

こうした中、ブラジルにとつて大きな礎となるのが日泰社会および日系人の方々であることは言うに及びません。企業、政財界、学界でも多くの方々が活躍されています。105年に亘る移民の歴史とその財産とも呼べるプレゼンスに、移民の日を迎えられるこの日、敬意とともに感謝の意を表します。

ブラジルにとつても今年は大きなチャレンジの年です。潜在成長力を

発揮するためのインフラ投資が本格化しており、最近では港湾への民間投資促進法案の可決や、掘りに石油ガス上流利益の入札が実現しました。

こうした中、ブラジルとしても日本との新たなパートナーシップへの期待が高まっているとひしひし感じています。

新たな協力関係には、人材育成・交流も含まれます。ブラジル政府は、科学技術や競争力の強化を狙って約10万人の日系学生を外国留学させ

ています。日伯間でもまだまだ改善すべきビジネス環境の課題は残っています。併し、日伯社会保障協定の締結、商用マルチビザ

の3年への延長、また在日日本ブラジル総領事館によるビザ発行迅速化など、日本企業また日伯間の留学生・研修生を取り巻く環境は確実に改善の兆しをみせています。

5月には、茂木経済産業大臣が来伯され、ピメンテル開発商工大臣他との間で日伯間の貿易投資並びに産業連携の強化が約束されました。我々商工会議所も日本とブラジルの益々の関係強化、益々の交流促進にむけ活動を続けていく所存です。

引き続き日系社会の皆様にはご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

ブラジル日本移民100周年記念日を迎えるにあたり謹んで挨拶を申し上げます。

ブラジルは世界第6位の経済大国になりました。近年IT革命やグローバル化が進み、BRICsなど新しいパワー

の台頭により、世界は新たな秩序を模索しており、日系移民の方々が一世紀かけて築いてこられたブラジルと日本の関係は、両国の更なる発展のために益々重要となっております。

日本は「アベノミクス」を掲げ、新たな成長戦略を模索し始めました。が、好調な消費者市場、豊富なエネルギー・天然資源や食糧資源など多様なポテンシャルを持つブラジルは、従来に増して日本企業の注目を集めて

# 日系社会も国際行事に協力

ブラジル日本文化福祉協会

会長 木多喜八郎



に持ち帰った者達である  
と書えるでしょう。今の  
日本の現実を身を持って  
体験し、日本文化と現状  
の日本にとつくり浸り、  
洗礼を受けて帰って  
きた者達であることは疑  
いも無き事実であります。

日本移民105周年を  
迎えるにあたり、今日の  
ブラジル日系社会の繁栄  
を築いた先駆移民の  
御苦労を偲び、開拓先  
者の御霊に対し衷心より  
哀悼の意を表する次第で  
ございます。

日本人が新天地を求め  
てブラジルへ渡ったのが  
二十世紀の初期でありま  
すが、100年間に約2  
5万人が移住し、現在、  
日系社会の人口は150  
万人以上と推定されてい  
ます。1980年より約  
30万人の日系人が母国  
へ研修、出張等の機会を  
得て祖國で勤労、勉学に  
励んでまいりましたこと  
も、2008年のリーマ  
ンショックに端を以って  
日本の経済不況に於いて  
約12万人にのぼる  
日系人がブラジルに戻っ  
て来ました。

帰国した若者は新しい  
日本文化をブラジル社会  
を通じてしか現在の  
日本を見、知ることが  
出来ない、古き良き時代  
の日本文化を同郷より聞  
くことが出来ません。



かされて育った、大多数  
のブラジルの日系人と、  
日本の伝統文化、芸術を  
含めた現状を体験して  
戻って来た者達との融合  
を如何に図るかによっ  
て、今後の日系社会の  
「日本文化とコロンビア  
の伝統」に焦点をおいた新  
しい活性化への道が開か  
れてくるのではないかと  
思います。

今後、日系団体・日系  
社会を存続させていくに  
は、ブラジル社会の中で  
日系人が、ブラジル人と  
して、いかに日本文化を  
軸にしてその特質性を  
発揮できるかに掛かって  
いると思われまます。そ  
の

意味においても日本とブ  
ラジルの文化交流の促進  
が最も重要な要素となっ  
てきます。

持続可能な経済・貿易  
関係は相互の信頼関係の  
上に築かれるものであり  
ますが、日本からの企業  
進出が増加を示している  
現在、日本が築き上げた  
信用こそが最も力強い  
パートナーとしての存在  
であり、先駆移民が伝え  
た大切な遺産でありま  
す。

この基盤を更に有効に  
活用するためにも、人材  
育成を強化し、若い世代  
の交流をもっと活発に行  
う必要性があります。

日本政府のご厚意によっ  
て、半世紀近くにもわたり  
奨学金制度、研修生制度  
を通じてブラジルの日系  
人が訪日する機会を得て  
日本文化を体験してまい  
りました。ですが、今度  
は日本の若い世代も同様  
のようにブラジルを知っ  
てもらう機会より多く設  
けて、ブラジルを体験す  
る人が増えることで日伯  
両国の関係が更に緊密に  
なると同時に、日系社会  
の活性化にも繋がるもの  
であります。

# 日本移民105周年に寄せて

サンパウロ日伯援護協会

会長 菊地 義治



今や、ブラジル国に於け  
る日系社会は150万人を  
形成するまでに成長し、  
丸に染まった最初の日本  
移民781人がこのブラ  
ジル國のサントス港に  
上陸して105年の歳月  
が流れました。そして、

今や、ブラジル国に於け  
る日系社会は150万人を  
形成するまでに成長し、  
丸に染まった最初の日本  
移民781人がこのブラ  
ジル國のサントス港に  
上陸して105年の歳月  
が流れました。そして、

この間、約1世紀余  
り、日系二世及びその  
子孫たちは農業分野での  
目覚ましい活躍に始まり、  
工業、商業、政治、芸術  
文化、教育等々のあらゆる  
分野に於いて日本人  
特有の誠実さと勤勉さと  
不断の努力によって「こ  
ブラジル社会の発展に大  
いに寄与し、今や、ブラ  
ジル社会にとつて、なく  
てはならない存在として  
確固たる地位を築き上げ  
ております。

資源、コーヒー、とうも  
ろこし、大豆、サトウキ  
ビ、各種果物等の農産物  
資源、さらには牛肉、  
豚肉、鶏肉、乳製品等の  
畜産物資源に恵まれ、  
一方で外資の導入による  
工業化も大いに伸展し、  
名目GDP(2012年  
実績)はロシアを抜いて  
世界第7位、基礎産業で  
ある自動車生産台数で  
も世界第7位(2011  
年実績)の実績を誇り、  
今や、押しも押されませ  
ぬ経済大国に成長いたし  
ました。

援護は今後も、創立の  
理念であります「社会的  
弱者の救済援護」の精神  
を忘れることなく、  
著実、誠実に実践し、各  
層ともに日系社会の団体  
として日系社会のみなら  
ず、ブラジル社会にも  
しっかりと貢献していく  
所存であります。

最後にになりましたが、  
開拓先亡者の方々の偉大  
なる功績は日系社会のみ  
ならず、ブラジル社会の  
中で未来永劫、生き続  
け、輝き続けるものと強  
く確信しております。

日本移民105周年を  
迎えた今日、今は亡き  
開拓先亡者の方々の御霊  
に対し、ここに衷心から  
の哀悼の誠を捧げ、追悼  
の詞といたします。

協会(拠所)は1952  
年から始まった日本人  
移民移住の最盛期を迎え  
て、サントス港に上陸す  
る移住者たちの上陸後の  
苦難を軽減、改善する  
ため、

協会(拠所)は1952  
年から始まった日本人  
移民移住の最盛期を迎え  
て、サントス港に上陸す  
る移住者たちの上陸後の  
苦難を軽減、改善する  
ため、



# 移民の日に思うこと

ブラジル日本都道府県人会連合会

会長 園田 昭憲



ブラジルの日本移民は今年105年、そして1942年から約10年間の移民空白の時代を経て、戦後の移住が再開されて60年になり、7月

余、そして現在では150万人余といわれる日系人の中に占める日本人の数は4%を下回るといわれています。しかしながら105年前に、コーヒー園でのコロノ生活に始まり、幾多の年月の中には志を棄たせず、また過酷な労働の中で生を受けた子供が早世するなど、一言でブラジルの日本人移民を語ることはできませんが、その人たちの労苦があったから現在があるという

ことも忘れてはなりません。6月18日の移民の日、志を棄せず亡くなられた人の慰霊をする日でもあります。自分の意思とは関係なく両親につれて、ブラジルに来て成長し、そして亡くなった人たちもいます。今では日系社会も移り変わって、ブラジル生まれの人たちが多くなり、一世の大半は高齢化し、二世、三世そして四世という時代が来ており、世代別の混血状況は四世において60%を超えたとみられています。そこでこれからの日系社会のあり方を考えなければなりません。このような中で、日本に対する認識、理解は希薄になっており、相互の交流を今まで以上に密に行うことが大切です。それには、私どもの行く基礎を作ったように、先人の足跡を忘れてはなりません。毎年6月18日に行われる慰霊祭は、これからの日系人の生き方を考えると共に先人の方々への鎮魂の儀式です。これを次代に受け継いでもらうことも、新しい日系の歴史への第一歩を踏み出したいと思えます。

# 日本文化の特質伝える

日伯文化連盟

理事長 中谷アンセルモ



私は最近、日伯文化連盟理事長として、また古河電工ブラジル法人前社長としてNHKよりインタビューを受けました。この番組はブラジルに

ついての特別番組でした。製作の第一の理由は、今年がブラジル日本移住105年にあたり、戦後移住も60年の節目の年にあたるためです。そして、第三は日本の重要課題、即ち三十年間途絶えていた日本からの巨額の直接投資に関連するからでしょう。取材記者はブラジルが日本の投資家に絶好の機会を提供することができ、このことを日本の視聴者に、はっきりと伝えたいと思ったようです。当地には150万といわれる日系人が住んでいます。そして日系人は勤勉で、信頼がかけ、それ以上に道徳面でも素晴らしい評判を勝ち得ています。それ故、疑いなく、ブラジル人は地球の反対側からやってきた文化も習慣も異なる日本人を完全に受け入れたのです。このことは当地に投資する多くの日本人や居住することを決めた人々には、とても重要なことと語れるでしょう。

それ故、私は中・長期の視点から、日本企業での就労体験者である出稼者や、今から進出するブラジル社会に於ける日本人とその子孫と人口の99%を構成する他民族との最大限、融合の橋渡しをすべきだという考えを述べたかったのです。言い換えれば、日本人は日系社会だけで他民族と社会を孤立した生活をしてはならないのです。三世の40%、四世の60%が日系人以外と結婚しており、このことが同代人間の結婚を選択しないことが自然な傾向であることを裏付けています。すでに進出している日本企業による企業は、もちろん、今から進出する日本企業は特にC・Dクラスの消費者層の成長を考慮しながら、当国市場で強力に活動する必要があります。以上のことがインタビューでお話したことです。この話に関連して、日伯文化連盟は重要な役割を持っており、57年の歴史がある当連盟はコロナの中で唯一、ブラジル人・詩人ギレルメ・デル・アルメイダによって創立され、ブラジル文化と日本文化の融合の強化を目的としています。当連盟定款では理事企業メンバー構成に非日系人登用を義務付けています。当連盟の学習者は日本語だけを学ぶのではなく、日本文化や残念なことには、現代の若者たちにはあまり学べない品を生み出す彼らはブラジルに設立された日本企業成功のための基本的な要素となるでしょう。一方では、これらの融合が達成されるならば、日伯文化連盟理事長らによるブラジルに住む日本人は、当連盟でポルトガル語を学ぶことができ、日系人に頼ることなく一般社会に受け入れられるでしょう。約50年後には、日伯文化連盟は創立100周年を、またブラジルの日本移民は150周年を迎えます。できることなら、今以上に、数千年にわたる日本文化の特質を失うことなく、広汎なブラジル文化と日本文化の融合が達成されるならば、日伯文化連盟理事長らによる手弁当の働きが報われることとなるでしょう。